

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みるくはうす			
○保護者評価実施期間	R6年9月25日 ～ R6年10月11日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数)	12人
○従業者評価実施期間	R6年10月1日 ～ R6年10月11日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	R6年10月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お祭り等地域のイベントでカフェ出店やダンス発表をさせていただく事によって、社会性をリアルに養っていくことができます。	近所で買い物訓練を行ったり基幹相談や福祉事業所へご挨拶に伺う事で、イベントへお誘いいただいております。 外部とのコネクションを築く為には、受け身ではなく積極的に働き掛ける事が重要だと感じております。	イベントを終えたら終わりではなく、関係を継続していく為に日頃から接点を作るようにしています。
2	海外ボランティア等の受け入れをしているので、異文化に触れる事ができます。	事業所を閉鎖的にせず、外部からの朗報に対して前向きに行動するようにしています。	子ども達にとって有益となる経験が何であるかアンテナを張って常に良い情報を得ていくようにします。
3	個人で過ごす時間よりも集団活動に力を入れていて、誰もがその一つの場所で過ごす事ができるように日々合理的配慮を行っています。	スケジュールが視覚や聴覚によって理解できるように工夫し、活動の始まりと終わりがわかりやすいようにしています。	障がい特性の理解やその特性に有効な方法等を日々勉強し、違いを認めて集団で過ごせるように働き掛けます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信に関して弱さを感じています。	活動報告やマニュアル関連の周知ができていなかったり、保護者交流の機会を設けていてもそれが交流会だという認識を持っていたく事ができていません。	月に2回程度メーリングリストで活動報告や業務事項を発信する事をルーティン化させる事と、交流会等の集まりに参加する重要性を言語化してご家族に意識付けします。
2	ご家族向けのイベントへの参加者が固定化されています。	保護者交流や地域交流の大切な場であるという事の説明が弱いと思います。 保護者との距離感を縮めていけるように働き掛けていく事が必要だと思います。	イベントへの思いや狙いを言語化して伝えるようにします。 可能な限り子どもに役割を持たせてイベントへ巻き込んでいけるようにします。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービスみるくはうす

公表日 令和6年10月30日

利用児童数 29名

回収数 12人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	3				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	3				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	12					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	10				
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	1				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12					
	29	事業所の支援に満足していますか。	12					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みるくはうす		公表日		2024 年 10月 2日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		施設内のフロア面積は利用エリアあり、利用定員に対してのスペースは十分に確保できている。用途によって各部屋をパーテーションで区切られるようにしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		利用者10人に対して2名の指導員が必要ですが、常勤、非常勤職員を含め、6名体制です。(曜日、時間帯において変動あり)状況に応じてマンツーマンで対応が出来る状況で、必要に応じて配置数を調整している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		状況に応じてマンツーマンで対応が出来るようにも過ごしていただけるよう目的ごとに部屋を区分けしており、合理的配慮がなされています。室内はほぼバリアフリーであり、日々の業務で4Sを徹底させています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		折り畳みのテーブルや椅子を設置しているので用途に合わせて片付け、広々とした空間を確保することも出来ています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		各部屋がパーテーションで区切れるようになっているので、用途に合わせて自由に使えるようにしています。情緒不安定な場合は、主にスヌーズレンの部屋をカームダウン室として利用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		4	業務改善を必要とする事に関しては、ヒヤリハットや苦情報告書等の内容をスタッフと共有して次に繋げるようにしています。	改善は随時行っているが、その後の結果や様子を確認し、ケア記録に詳しく記録していく必要があると感じます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者向け評価表をご家族にお答えいただいた後に、スタッフでその振り返りを行なっています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		日々のミーティングでスタッフ同士が自由に意見を言える時間を設けています。ミーティングの時間だけでは共有しきれないものに関しては、チャットツールを利用して		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	現在は活用出来ていません。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		研修は社内・社外問わず積極的に参加し、毎月、何かの研修参加がされている。参加者がその内容を社内でフィードバック研修することによって、資質向上を行っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		全体的な基本の支援方針はHPやハフフレットに公表した上で、見学に来られた際に丁寧に説明させていただいています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		個別の支援計画やプログラムは保護者の連絡(半年・最低)に一度の計画更新の前、面談(来所が困難な場合はオンライン)でニーズを聞き出す事で、保護者様・ご本人と一緒に支援計画を作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		スタッフには担当会議だけでなく、モニタリングや支援計画の内容まで共有していて、必要な時には自由に意見が言え、その内容が反映されるようにしています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画の作成はスタッフ全員が共有しながら進めます。さらに日々、それ実践するために会議では個別計画をリマインドしながら、日々の担当や訓練を確認しています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		HUGという民間の層とでの様式を使用しています。また面談などの会話記録をワードで記録してその内容をPDF化し、張り付けて活		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		5領域を入れた計画書を作成し、説明・同意を頂いています。支援内容を具体的に明記し実践を行っています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		イベント内容や集団活動はミーティングでスタッフと一緒に決めています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		子ども達に多くの経験をさせていただきたいと感謝しているので、インターネットから得た活動内容を積極的に取り入れる等の工夫をしています。他事業所と一緒に活動する機会も作っており、そ		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		個々の発達状況や体調面に留意し、その個人に合った環境設定を工夫して集団生活への参加を促しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎朝ミーティングを行うようにルーティン化させています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援後は直帰するスタッフもいる為、原則翌日の朝にミーティングの時間を持ちます。重要事項がある場合は、チャットツールを使ってスタッフに共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		ケア記録にて記録を行い、毎朝のミーティングで検証し改善に努めています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		少なくとも半年に1度のモニタリングを行っています。 ご家族との立ち話やヒヤリハット等で支援内容に見直しが必要と感じられたら子の都度抱	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		インターネットや地域イベントから得た情報から工夫して「4つの基本活動」に繋げています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		個人に対して有効なツールを使って自己決定できるようにしています。 選択肢を与えたり筆談や絵カードを用いて自己選択を促しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		日頃から関わっているスタッフや児童発達支援管理責任者が情報をまとめて参加をしています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		医療機関に救急救命の講習を依頼し直接指導をしていただいたり子ども園見学の際に未就学児に対する学びをする機会を少しずつ作っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		初来校する前にその子校へ挨拶に伺い、校内乗入れのルール等を確認しています。 不明な事は対象となる児童の保護者も交えて確認するようにしています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		可能であれば卒園前に一度見学に行かせていただく事にしています。 保護者や相談員から園に話してもらおうと基本的にはスムーズに情報共有できます。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		求められた場合は、必要な情報を提供するようになっています。 基本的には、保護者や相談員がこちらでの情報を移行される事業所へ引き継いでくださる事が多いので放課後連絡会を通じて研修参加をしています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		今後はアプリコット堺や、あいステーションなどの関係機関と連携を持ち、積極的に研修の機会を確保していきたい。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4		地域の自治体との交流や地域のお祭りへ参加する事で、地域に住む子どもから高齢者まで幅広く関わる事ができ、ダンスを発表する機会も作れています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		現在放課後等デイサービスの自立支援協議会はないが、放課後連絡会という団体で必要な協議を行い、その協議内容を行政に上げています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡ツールを使って子どもの事を保護者と伝え合えるようにしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		民間や放課後連絡会から案内があった研修案内を保護者へ情報提供しています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		見学時に入まかなプログラムを説明して、実際に支援しているのを見ていただいています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		契約時に重要事項説明書を通して運営規定の支援計画作成にあたって子どもや保護者の思いを汲み取り、有益な支援ができるように心掛けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		見学時に体験の必要があるか確認し、必要な支援計画が一方的にならないようにご本人や保護者に内容の説明を行って同意のサインをいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		面談以外の時間でも、電話やチャットにてご相談を伺うようにしています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		年に2、3回は子どもや保護者が集まって交流できるような機会を設けています。コロナ前はご兄弟も参加していただけるようなイベント（夏祭りや地域のお祭り参加等）も行っていました。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情受付の体制は整備されています。年に一度は苦情対応に関する研修へ参加してサービス向上に努めています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		HUGの連絡、メーリングリストやSNSで活動内容の報告やイベントのご案内、必要事項を発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		紙媒体がウェブや管理に変更することで社外に情報が漏れないように工夫しています。（端末はパスワードでロックされています。）紙での保存が義務づけられている契約	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		写真（絵カード）や筆談、指差し等の様々な方法を用いて意志の疎通を図っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	地域の中学生・大学生が来ての見学や交流イベントを開催している。しかし、大人の地域社会の方々ではない。	地域のイベントに我々が招かれ参加する事はあるが、事業所に招く事はできていないので、何か工夫していきたいと思います。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		災害を想定した避難訓練の実施に関しては、子どもやご家族にも周知しています。	各用途のマニュアルがある事を子どもや保護者に周知する事や、BCPの内容に沿った緊急時における訓練まではできていません。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPの策定はできています。	BCPに合った緊急時の訓練へと変化している途中なので、よりリアリティーを求めて消防署へ相談してアイデアをいただきたいと思います。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		契約時のアクセスメントの際に対応や服薬等の打ち合わせを行っています。必要があれば保護者にレクチャーしていただき、動画や写真を記録として残して見返す事	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4		保護者の指示には応じていますが、これが医師の指示書かどうかは不明なので可能な限り確認していきたいと考えます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		子どもが使う備品や通路に危険がないか月毎に点検を行うようにしています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		4		今現在周知する事まではできていないので、早急に周知させていこうと考えています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		日々のミーティングで振り返りを行い、情報を共有し、再発防止を検討しています。またケア記録に記録しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員会を設置し、社内研修を行っています。また、社外研修にも積極的に参加して、その内容を事業所でフィードバックする時間を設けています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		現在、身体拘束を執断とする児童はありますが、過去の事例では安全確保の観点から必要な場合は、保護者や関係機関との打ち合わせを通して、同意を得たうえで支援計画に	